

じゃんけん——東京及び周辺——

中 本 正 智

- ジャンケンとともにチッケツタが
- 東京及び周辺の変異形
- 全国の変異形
- じゃんけんの語源
- じゃんけんの遊び言葉
- じゃんけんの背景

• ジャンケンとともにチッケツタが

ドーナツ状に広がる大都市圏の周辺部、埼玉県上福岡市、ここに私は住んでいる。池袋駅に出るのに東上線の準急を利用すれば32分かかり、東京都立大学の講義で通うのに、片道1時間45分かかる。上福岡市は新興住宅街だ。市政が敷かれる前は、入間郡福岡町大字福岡字西沼元古市場分とあって、いかにも田舎くさい住所であった。いまは、上福岡市福岡と昇格し、郡や字はなくなって、なつかしい文字となった。都市化の波は、住所地番にも及んでいる。上福岡駅の近くに、上野台団地と霞ヶ丘団地があって、都心に通うサラリーマンのベッドタウンだ。周辺都市の団地としては大団地の部類に入る。駅周辺には西友ストア、東部ストアがあって、その周辺は区画整理が行なわれて、なかなか落ちついたいい街となっている。古い木造の町庁舎は駅から遠いところに建っていたのが、いまでは駅の近くの高台に近代的コンクリート造りの市庁舎にかわった。昭和44年5月3日に東京豊島区南長崎から、ここへ越してきたのだが、当時、駅周辺は麦畑が多かった。十余年の変貌は大きい。いうまでもなく、言葉もかわりつつある。当初は、いわゆるズーズー弁がかった地元の方々の、いかにも純朴な言葉づかいが耳に入った。このごろでは、埼玉都民が多くなって、これもなかなか聞かれなくなり、言葉は都内とほとんど変わらなくなった。

上福岡市は都市化の波をもろにかぶっているところであるから、下校時の学童がジャンケンポンというところを、チッケツピと大声で言いながら戯れているのを見て、子供たちの新しいはやり言葉かと思った。ちょうどテレビでは、ジャンケンポン、アッチムイテホイ、コッチムイテホイと、新しいやり方がはやっていて、その一種だろう、チッケツピとはなかなかスピード感があって、現代っ子のはやり言葉にふさわしいと感心した。

どうやら、最新のはやり言葉とみたのは、はやとちりであったようだ。拙宅の前を下校する子供たちは圧倒的にチッケツピであって、ジャンケンポンではない。もし、最新のはやり言葉というのなら、ジャンケンポンをつかう保守の子供がいてもよいではないか。疑問を抱くとすぐ確かめようとするのが、言語研究者の悪いくせ、すぐに受講の学生に確かめてみた。するとどうだろう。最新のはやり言葉ではないらしいのだ。東京及びその周辺出身の学生の中には、子供のころからチッケツタとか、チッケツピと言って遊んだと報告するものが出てきた。大学生が子供のころというと、十年以上も前のことだ。十年一昔というから、チッケツタは昔からあった語形ということになりはしないか。はて？ ひょっとすると、チッケツピやチッケツタは最新のはやり言葉ではなく、関東では比較的古い語形ではなかったのか。そこでまた悪いくせがつのる。多くの学生にあたってみると、チッケツピを含むチッケツタ系は、東京をはじめ、周辺地域に広く分布しているらしいことがわかった。

• 東京及び周辺の変異形

東京のジャンケンはどうなっているか。太田愛子さんのご協力をえて、都心部のT私立高校をあたってみた。

高校生136人について、子供のころにつかったジャンケンの掛け声を記述式で報告してもらった。

その答えをみると、ジャンケンポンだけのものもあるし、ジャンケンポンとチッケツタの併用形もある。

これらの語形を地域ごとにまとめてみると次のようである。

東京地域を分けるのに、都心から周辺へと分けて、都心部、都東北部、都西南部、都辺境部、周辺地区とした。これらの地域をさらに、区、市に分けた。末尾()内の数は、答えの語形数を示す。

ジャンケンポン dgakempon

- I.〔都心部〕(10), 港区(2), 千代田区(1), 新宿区(2), 文京区(5)
- II.〔都東北部〕(16), 江戸川区(3), 足立区(2), 江東区(3), 墨田区(1), 台東区(2), 荒川区(3), 北区(2)
- III.〔都西南部〕(19), 品川区(2), 目黒区(1), 世田谷区(6), 杉並区(2), 中野区(1), 練馬区(5), 豊島区(2)
- IV.〔都辺境部〕(11), 三鷹市(1), 府中市(2), 武蔵野市(2), 小金井市(1), 小平市(1), 日野市(1), 八王子市(1), 町田市(2)
- V.〔周辺地区〕(22), 松戸市, 柏市(2), 我孫子市(1), 市川市(4), 春日部市(1), 越谷市(1), 浦和市(2), 川越市(1), 所沢市(1), 新座市(2), 川崎市(2), 横浜市(1), 相模原市(1), 厚木市(1)

報告者の出身地は、ほぼ全域にわたっているものの、部や地区における報告者の数を定めていないので、数字を単純に比較することはできないけれど、おおよその傾向を知ることができる。

ジャンケンポンは、都心部をはじめ、周辺においてもさかんに用いられていることがわかる。チッケッタとの併用地域では、ジャンケンポンは女子が、チッケッタは男子がつかう傾向がある。そのことを報告したものが散見された。ジャンケンポンは上品で、チッケッタは、らんぼうであるとの意識が感じられる。

ジャンケンポイ dgakempoi

- I.〔都心部〕(6), 港区(3), 千代田区(1), 文京区(2)
- II.〔都東北部〕(14), 江戸川区(3), 足立区(4), 江東区(2), 荒川区(3), 板橋区(2)
- III.〔都西南部〕(16), 大田区(1), 品川区(1), 目黒区(1), 世田谷区(3), 杉並区(4), 中野区(1), 練馬区(4), 豊島区(1),
- IV.〔都辺境部〕(11), 三鷹市(1), 狛江市(2), 調布市(2), 武蔵野市(1), 小金井市(1), 田無市(1), 東久留米市(1), 国立市(1), 多摩市(1)
- V.〔周辺地区〕(11), 松戸市(1), 柏市(1), 市川市(1), 千葉市(1), 茨城県稲敷郡(1), 朝霞市(1), 和光市(1), 川越市(1), 川崎市(1), 相模原市(2)

ジャンケンポイは、ジャンケンポンと同様、全域で用いられているが、ジャンケンポンより、勢力が弱い。

とくに、周辺地区において勢力が半減している。

ジャンケンポン系の語形として、わずかであるが、次のものがある。

ジャンケンポ dgakempo

- II.〔都東北部〕(1), 台東区(1)
- III.〔都西南部〕(1), 練馬区(1)
- V.〔周辺地区〕(1), 千葉市(1)

ジャンケンホイ dgakenhoi

- I.〔都心部〕(1), 渋谷区(1)
- III.〔都西南部〕(1), 練馬区(1)

ジャスケスポ dgasukesupo

- III.〔都西南部〕(1), 杉並区(1)

ジャラケツホイ dzaraketsuhoi

- III.〔都西南部〕(1), 目黒区(1)
- IV.〔都辺境部〕(1), 府中市(1)

いずれも、わずかな例が点在している。ジャンケンポンが、いろいろな変異形を生みだすことを予想させてくれる。

以上のジャンケンポン系と対立するものにチッケッタ系がある。その分布をみると次のようである。

チッケッタ tjikketta

- I.〔都心部〕(2), 千代田区(1), 文京区(1)
- II.〔都東北部〕(7), 江戸川区(1), 足立区(2), 墨田区(1), 台東区(2), 板橋区(1)
- III.〔都西南部〕(13), 品川区(3), 目黒区(3), 杉並区(2), 練馬区(4), 豊島区(1)
- IV.〔都辺境部〕(7), 調布市(1), 府中市(1), 小金井市(1), 日野市(1), 八王子市(2), 町田市(1)
- V.〔周辺地区〕(17), 松戸市(2), 柏市(2), 我孫子(1), 市川市(1), 船橋市(1), 千葉市(1), 春日部市(2), 越谷市(2), 浦和市(1), 新座市(1), 川越市(1), 横浜市(2)

チッケッタの分布はジャンケンポン同様、全域に及んでいる。比較的にならぬ都心部には少ないが、その周辺部ではかなりさかんにつかわれていることがわかる。おそらく、周辺部ではジャンケンポンと併用している地域が多いであろう。

チッケッタ系の変異形として次のものがある。

チーケッタ tjikketta

- III.〔都西南部〕(1), 練馬区(1)

ジーチッタ dgiirtjitta

- I.〔都心部〕(1), 文京区(1)

チッケット tjikketto

II.〔都東北部〕(1), 江東区(1)

IV.〔都辺境部〕(1), 府中市(1)

ジーケンピ dgikempi

V.〔周辺地区〕(1), 相模原市(1)

チーラッセ tjirasse

II.〔都東北部〕(1), 墨田区(1)

チーレッタ tjirretta

VI.〔都辺境部〕(1), 国分寺市(1)

チーレピ tjireppi

I.〔都心部〕(1), 千代田区(1)

チーレッセ tjirresse

II.〔都東北部〕(1), 江戸川区(1)

チーロッセ tjirosse

V.〔周辺地区〕(1), 市川市(1)

チッケツタ系は、このように多くの変異形を派生させていて、東京都の周辺部に強い勢力をもって分布している。

ジャンケンボン系とチッケツタ系が東京及びその周辺の主な語形であるが、そのほかに次のような特殊形もある。

グーパージャス gupardzasu

I.〔都心部〕(1), 文京区(1)

III.〔都西南部〕(4), 目黒区, 世田谷区(1), 杉並区(2)

グーパージャン gupardzan

II.〔都東北部〕(2), 江東区, 台東区(1)

グーチョキパー gutfokipa:

II.〔都東北部〕(1), 足立区(1)

IV.〔都辺境部〕(1), 府中市(1)

イッセイノセ isseinose

II.〔都東北部〕(1), 足立区(1)

ホイホイホイ hoihoihoi

III.〔都西南部〕(1), 杉並区(1)

これらは、グー(石), チョキ(鉄), パー(紙)から派生したもの、および掛け声から派生したものである。

このような語形はもっと種類が多いと思われる。

・全国の変異形

参考までに、大学生から得た語形をあげよう。出てきた語形のうち、ジャンケンボンは日本全域に分布していると思われるので省くことにした。

キッキッキ kikkikki 青森県

イシケンキッキ ijikenkikki 宮城県宮城郡松島町高城

ホーレンエス horren esu 新潟県

ギッチャンエス gittfan esu 新潟県

チッチッパ tjittjippa 群馬県

チッカッセ tjikkasse 群馬県

チッケツタ tjikketta 茨城県筑波郡伊奈村大字山王新田

チャッチャッチャ tjattjattja 千葉県夷隅郡大原町

チッチッタ tjittfitta 千葉県茂原市高師(男子), 女子はジャンケンボン。

チッケツタ tjikketta 千葉県習志野市谷津町

チーレッサ tjirressa 千葉県船橋市

チッケツピ tjikkeppi 埼玉県入間市

チッケツタ tjikketta 埼玉県加須市

チッケツダ tjikkedda 埼玉県坂戸市

チッカッキュ tjikkakkju 群馬県前橋市上佐鳥町

チットッセ tjittosse 静岡県

チーヨンホイ tjijonhoi 静岡県

アイケングー aikenguu 静岡県清水市

インチャンホイ intfanhoi 名古屋市北区平手町

ジャンケンホイ dgikkenhoi 和歌山県

インジャンホイ indzanhoi 大阪府東大阪市吉田町

インジャンデホイ indgandehoi 兵庫県・大阪府

ジャンケンホイ dzankenhoi 鳥取県

ジャンケイホイ dzankeihoi 岡山県

チーネンチ tjinentji 愛媛県新居浜市

ジャイケンショ dzaikenjo 福岡市飯倉

ジャンケンチ dzankentji 福岡県

イッセーノセイ isse:nosei 長崎市麴屋町

東京及びその周辺のチッケツタ系は、関東から東北へつながっている。そしてジャンケンボン系は、これらの上に共通語としてかぶさり、併用形となっている。この分布状況からみて、東京においては、チッケツタ系が本来の語として分布し、その上に、新しくジャンケンボン系がかぶさったものと思われる。

ジャンケンとは、東京や京都などの中央圏から新しく広がった語であり、それ以前に広がった語として、青森や島根などの周辺にキッキッキまたはキッキノキがある。東京及びその周辺のチッケツタもジャンケン以前に広がった語と思われる。

・じゃんけんの語源

ジャンケンの語源は、「両拳」とも「石拳」ともいわれている。江戸末の『皇都午睡』(1848年頃, 西沢一風)に、「近頃東都にてはやりしはジャン拳也」とあるか

ら、そう古いものではない。

少し古く『浮世風呂』(1809年、式亭三馬)に「虫拳」がある。これは、指を一本ずつ出して競う。親指が蛙、人差指が蛇、小指が蛞蝓なつむしをそれぞれ表す。蛙は蛇に負け、蛇は蛞蝓に、蛞蝓は蛙に負ける。

虫拳は、かつて全国に広がったらしく、琉球には現在まで残っている。首里でブーサー、与那国でブサ、奄美湯湾でブシャという。ただし、沖縄のブーサーは、蛙、蛇、蛞蝓を表している意識がうすれ、また勝敗も逆になっている。

ブーサーは muji (虫) に接尾辞の a がついた形である。語頭の b は、butji (鞭) や natjibusu: (泣き虫) の例と同じ現象であろう。

・じゃんけんの遊び言葉

「じゃんけん」をしながら、これをもじった遊び言葉がある。

じゃんけん ほかほか ほっかいどう

あいこで アメリカ ヨーロッパ

「あいこで」の語頭音「あ」が、アメリカ・ヨーロッパを引き出す役目をしている。「ほかほか」は「ほっかいどう」の「ほ」と連なっているが、前の「じゃんけん」とどう関係するのだろうか。「じゃんけん ほしい」という「ほしい」のかわりに、「ほかほか」ときたように思われる。それにしても「ほかほか」が「ほっかいどう」につながる時、意味の関連はあまりないようである。どうも「ほかほか」は不自然な感を免れない。そこで、

じゃんけん じゃがいも さつまいも

あいこで アメリカ ヨーロッパ

をみると、「じゃんけん」の「じゃ」が、「じゃがいも」を引き出し、「じゃがいも」が次の「さつまいも」を引き出している。このほうが、もとの形と思われる。この形が、いろいろな形を生みだすもとなったようだ。次にその変異形をあげておこう。

じゃんけん ほかほか ほっかいどうは さあむいよ

あいこで アメリカ ヨーロッパは ひいろいよ

じゃんけん じゃがいも ほっかいどうは さむいから いかないよ

じゃんけん ほかほか ほっかいどうは さあむいようふく きてきたね

じゃんけん ぼっくりげた いもくって ぶうしてくうんだよ

これらはジャンケン系から派生したものであるが、

チッケツタ系から派生したものもある。

ちっけえどんがらがった きやすとん びいなつかれえらいす

なかには、ジャンケン系とチッケツタ系の両形が合わさったものもある。

いんげん とんがらがった じゃすとん びいなつかれえらいす

「いんげん」はジャンケンからの派生であろう。「とんがらがった」以下はチッケツタからの派生であろう。

・じゃんけんの背景

はじめに「じゃんけん」の新流行語かと思われたチッケツタが、実は関東地域に古くから分布しているチッケツタ系の一変異であることがわかった。ジャンケン系は、おそらく明治以降、山の手を中心に広がった新語形であろう。

なぜ、チッケツタ系という古形が現在まで東京及びその周辺に伝承されてきているか。それは「じゃんけん」が子供の世界の遊びであり、しかも、その伝承が子供から子供へと行なわれてきたからであろう。そして遊びの言葉であるから、そこには学校教育に束縛されない自由さがある。

古形のチッケツタと新形のジャンケンはどのような関係にあるか。もとは一つの「じゃんけん」があったと思われ、それがチッケツタとジャンケンの両形を派生したと思われる。したがってチッケツタは一時代前に広まった変異形であったであろう。

一時代前に広まった「じゃんけん」は、全国に変異形を生み、その分布も複雑である。全国の「じゃんけん」を徹視的にも巨視的にも研究していかねばならない。

「じゃんけん」の語形だけでなく、グー(石)、チョキ(鋏)、パー(紙)についても調査する必要がある。チョキをピーという地域が名古屋、高知あたりにある。沖縄ではグー、チョキ、パーとは言わず、イシ、ハサミ、フロシキという。「紙」でなく「風呂敷」である。これらの変異形も明らかにする必要がある。

「じゃんけん」の遊び言葉もさまざまな派生形を生んでいて、その変異形の比較研究も大事なことだ。語を派生させていく心理がそこに読みとれる。

じゃんけんが子供の遊びの中でどのように機能しているかという観点も必要なことだ。じゃんけんは順位を決めたり、人選をしたり、組分けをしたりというときによく機能しているが、じゃんけんでは歩数を決めて先にすすむ遊びも下校時の子供たちによくみられる。

グーで勝てば、大声でグ・リ・コと唱えながら三歩すすみ、チョキで勝てば、チ・ヨ・コ・レ・イ・トと六歩すすみ、パーで勝てば、パ・イ・ナ・ツ・ブ・ルと六歩すすむ。先へすすんだ方が勝ちとなるが、歩数で距離差がつき、どんどん大声のじゃんけんとなっていく。じゃんけんではどのような遊びをするかということも地域差があるようだ。

「じゃんけん」より古い「虫拳^{ムシケン}」は、現在琉球地域に点在しているが、その他の地域ではどうなったか。そ

の解明も大事なことだ。
無心に遊ぶ子供の「じゃんけん」の中に、言語学上の多くの問題が、そして文化の波及や伝承の問題がひそんでいるのを見るのである。

参考文献

『分類方言辞典』東京堂出版、昭和29年

東京都立大学助教授